

木は1年に1回果実をつけ、それを収穫したあとは、長い冬を越えて再び翌年実をつけます。その実を確実に収穫して、次の収穫に備える準備をし、翌年再び実を収穫するという意味で「金のなる木」と名づけました。
【3~5年で資金3倍化を目指して】

- 短期の買いチャンス到来 -

前回、日経平均が9/14(月)で売転換したことをお知らせし、9/28(月)に下放れ
... 為替も90円接近から反発したあと、想定通り90円割れ ...

9/17(木)のレポートでは、9/14(月)に日経平均は、この日の終値10202円となって柴田罫線で三尊天井を形成して売転換が出現しており、これがどう動いていくかをNYダウと為替の方からながめ、確率的には10100円~10500円台のもみあいを下げられるとしました。

NYダウは要注意とし、当面の7/8の8057ドルの安値からの上昇の仕方が3段の縮小型(もしくは第2段と第3段の同幅の型)で当面のピークに近いとし、その場合最大9800ドル台を想定しました。しかし、予想を上回る経済指標が相次ぎ、年初来高値を更新しつづけ9/22(水)にザラ場9917ドルまであって終値9748ドルの急落となりました。その後、3日連続安となって9/25(金)には9665ドルとなりました。しかし、為替の方は長期金利の低下からドルは円高方向にあり、日本株への影響は綱引き状態となって売転換出現以降も10100円~10500円のボックス相場が継続しました。為替が前号で分析したように90円接近でいったん戻るものの、その後90円を切ってくるとしたように先週末のアメリカ市場で1ドル=88円台までの円高進行となりました。これを受けて今週の9/28(月)は一時9971円まで下落して大引けは10009円と想定通り10100~10500円台のもみあいの下放れとなりました。正確には8/21の10142円を切ると下放れとなる形でした。引け後のNYダウが終値で切ると一応下放れの形となる9605ドルを守って反発し、124ドルの9789ドルとなって高値圏でのもみあい状態となりました。本日(10/1)は154円の9978円と1万円を割れて引けました。今週はSQ1週前のオプションの攻防で、明日大きく戻れなければ来週のSQに向けてブット(売り)有利となって、NYダウ次第のところもありますが、10/7に向かって一段安の可能性もあります。

-----出島投資ワールド9/25(金)より抜粋
欧米主要株式は週足で売りの形 - 久しぶりの買いチャンス到来か?
... NYダウの9497ドルがいつ割れるかに注目 ...

昨日、NYダウのチャート分析で書きましたが、イギリスのFT、ドイツのDAXは週足の形では売りの形となっているとしました。週足ですので目先は横もみになって多少時間がかかることもありますが、来週からの数週間内には下への方向性がはっきりしてくるとみています。昨日の日本市場の引け後の欧米市場は、イギリスFTで60Pの5079P、ドイツDAXで96Pの5605P、NYダウで41ドルの9707ドルとなりました。このまま下げ方向となるのか横へ上下動となるのかはわかりませんが、いずれ下への方向性がはっきりしてくるでしょう。結局、NYダウは第1段目が3/9の6547ドル 6/12の8799ドル、第2段目が7/10の8146ドル 9/22(火)の9917ドルとなる可能性があります。それをみるポイントは、昨日の分析では週足で9605ドルを切ってくると26週移動平均線の8613ドルあたりもとしましたが、次に9/8(火)の9497ドル(連休明け後のこの週の始値)を切ってくると確実に週足での下放れの形となってきます。

日経平均は、これまで分析しましたように 10100 円～10500 円台のボックス圏の動きとなっており、下では 8/21 の 10142 円、9/4 の 10143 円、9/14 の 10170 円と 3 点底(逆三尊)となり、上では柴田罫線で 8/10 の 10524 円、8/24 の 10581 円、9/10 の 10513 円と三尊(三像)を形成して、9/14 に 10202 円で売転換出現となっています。上下どちらにぬけても大きな動きになるとしましたが、私は NY ダウの動きからみると下に向かう確率が高いとしてきました。その NY ダウが 9/8 の 9497 ドルを終値で切ると日経平均も下放れになるとみています。それとも為替が 90 円を切る動きとなって下げること考えられます。日経平均も下落した場合は、26 週移動平均線(本日 9736 円)が基本となりますが、悪条件が重なれば 9300 円～9500 円ゾーンまで下げる可能性もあります。

とにかく今回下げてもそれは、日米ともに第 2 段の上昇の一区切りであり、ふつうは第 3 段目の上昇があって、それで 3 月からの上昇が一通り終わるとみてよいでしょう。大きな 2 番底がくるとしたら、そのような上昇相場(3 段の上げで終了)が終わったあとということになります。とすれば今回の下げは日経平均で 1 万円割れる場面から買いを考えていくチャンス到来ということになります。

7/13(月)の 9050 円を安値に 2 段目の上昇となり、7 月末から現在まで 1 万円台での動きとなっていますが、8 月以降の動きは日経平均に連動する指数だけの動きで個人投資家が買って儲かる相場とはなってきませんでした。そのためほとんど待ち伏せ銘柄としたものが多く、下げてくるのを待つとしました、久しぶりにそのチャンスが到来する可能性がでてきました。今回はあわてることなくこれまで推奨した銘柄で自分の買いたいものをピックアップし、安くなったところを狙っていけばよいでしょう。自分で判断できない方は大チャンスの際はバック銘柄を出しますのでもそれまで待つて下さい。

-----出島投資ワールド 9/28(月)より抜粋
先週末想定した為替の 90 円割れから一時 1 万円割れ
... ここからは、少しずつ買い下がっていく投資戦術 ...

先週末(9/25)の日経平均の分析で、10100 円～10500 円台のボックス相場となっており、上下どちらに放れるにしろ大きく動くとし、柴田罫線では三尊天井をつくって 9/14 に売転換出現となったので、私は下に向かう確率が高いとしました。その場合のきっかけは、NY ダウがまず 9605 ドルを切り、さらに 9497 ドルを切って確実な下放れとなるか、もしくは為替で 90 円を切る動きとなるのかどちらかとしました。

結局、先週末に為替が 90 円を切って終わったことで本日は一気に 88 円台まで円高が進むことになりました。これを受けて本日の日経平均は 129 円の 10136 円と 8/21 の 10142 円を切って寄り付き、前場は 241 円の 10023 円でした。後場も 1 万円を割れて 9971 円までありましたが、大引けにかけては 256 円の 10009 円とかがろうじて 1 万円を守りました。

為替は、目先は円高がさらに進行しても昨年の 12/17 の 87.109 円が下値抵抗ラインとなるところです。今回の円高が、その水準でいったん止まるとすれば輸出関連株の特に自動車株などもいったん反発することになりますので、日経平均も反発することになります。その下値ポイントが先日分析した 26 週線水準だとすれば、現在 9786 円となりますので、1 回目の買いポイントのところとなります。但し、日経平均は、NY ダウに連動しますので NY ダウがどこまで下げ止まるかがポイントとなります。まず、9605 ドル次に 9497 ドルを切るかどうかにかかりませんが、ここを切ると NY ダウは下放れとなるため、日経平均も 26 週線水準では止まらない可能性もあります。今は、欧米株式は過剰流動性(金余り)のバブル的な動きであり、過剰で売りの形となっても高値圏での動きが続くこともあり、その場合は、日本株も出遅れ感から下値は限定的ということもあります。中小型株は早くから調整が続いてかなり安くなったものもあり、日経平均の指数が下げてもそれほど連動しない状況になりつつあります。目先は業績に裏付けのあるテーマ株を買い下がっていく戦術で、上昇に転じれば短期の利食い優先となります。

ここからは少しずつ安くなるところを買っていくところ。少し買って上昇してしまえば、その場合は早目に確実に利益確定し、次の下げを待つこととなります。NY ダウ次第では 9500 円割れも考えられないことありませんので、早目に目一杯買わないことが大切です。逆に、9500 円水準で待つということもかまいませんが、そこまで下げなかったら今回は仕方ないという心の持ち方が必要です。一応、26 週線水準(9786 円)は大きなフシですので、1 万円割れ水準から買ってみるころです。

< 当面の投資の考え方 >

前号(9/17)でNYダウはいずれ本格調整(2番底)の可能性もとしましたが、このいずれという意味は、今回の下落があればその延長線上に暴落があるという意味ではありません。今回の下落は3月の上昇からの2段目の上昇の一区切りとなる下げであり、ふつうは、この下落の到達点から3段目の上昇があり(深押しすればダブル天井となってしまう)それで3月からの上昇がおわって本格調整(2番底)にはいっていき可能性が高いというのが私が考えているシナリオの1つです。当然、日経平均も10100円~10500円台を下放れして、どこかで底を打ったあとと同じく3段目の上昇となるのですが、これまでの麻生政権の時の大型の景気対策を前提にすれば、まずは11000円を試して、もっと上もというシナリオが考えられたわけです。しかし、鳩山政権で経済政策の内容が変わったこと、さらに円高が明確になってきたことで企業業績に不透明感が生じこれまでのシナリオの修正が余儀なくされ、3段目の上昇となってもあまり上値は期待できなくなりました。12000円を目指すような本格上昇になるのは、日米ともに2番底をつけたあとの(特に民主党の経済政策は時期が遅れて個人消費中心に経済への効果がでると思われ)来年の半ば以降と想定しています。そう考えると、大きく儲けようとするならばこのレポートの方針通り年2-3回の投資に徹し、基本的には次の2番底を待つスタンスとなります。短期売買できる人は、今回の下げでの買いポイントは9/3(木)号で日経平均の1万円前後としたように、やっとその水準まで下げてきましたので余裕のある人はこの水準から買い下がることとなります。但し、3段目の上昇で3月から相場が終わる可能性が高いので短期の利益確定を実行しなければなりません。長めの保有というのは日経平均が今年の3月のように大幅下落となって大底圏で買えた場合できることです。つまり、2番底を待つということになります。

今回の押し目買い銘柄

(1)9/3の買推奨銘柄(再度の買推奨)

(と3つの買いポイントを設定し、余裕がない人は日経平均が大きく下げて ポイントまで下がった時に買うとしました。)

コード 銘柄	10/1(木)の 終 値	買ポイント	短期売買の 利食いポイント	コメント
4208 宇部興産	229	210~220円台 200円台	260~280円 300円前後	9/3(木)の終値284円。その後徐々に下値切り下げの動き。買ポイントにはいって来ました。
6504 富士電機HD	155	160円台 140~150円 120円台	190~200円 220~240円	9/3(木)の終値178円。その後もみあって下値を切り下げる動き。買ポイントに近づいています。
7003 三井造船	229	230円前後 200~210円	260~280円 300円前後	9/3(木)の終値248円。その後高値は9/17の263円までで、そこからじりじり調整。買ポイントにはいって来ています。
9470 学習研究社	253	230円台 220円台	270~280円 300円以上	9/3(木)の終値215円で買ポイント200円~210円として利食いポイント230円~250円としました。9/8に205円まで下げて本日は263円まであって終値253。目標達成し再び押し目買い。

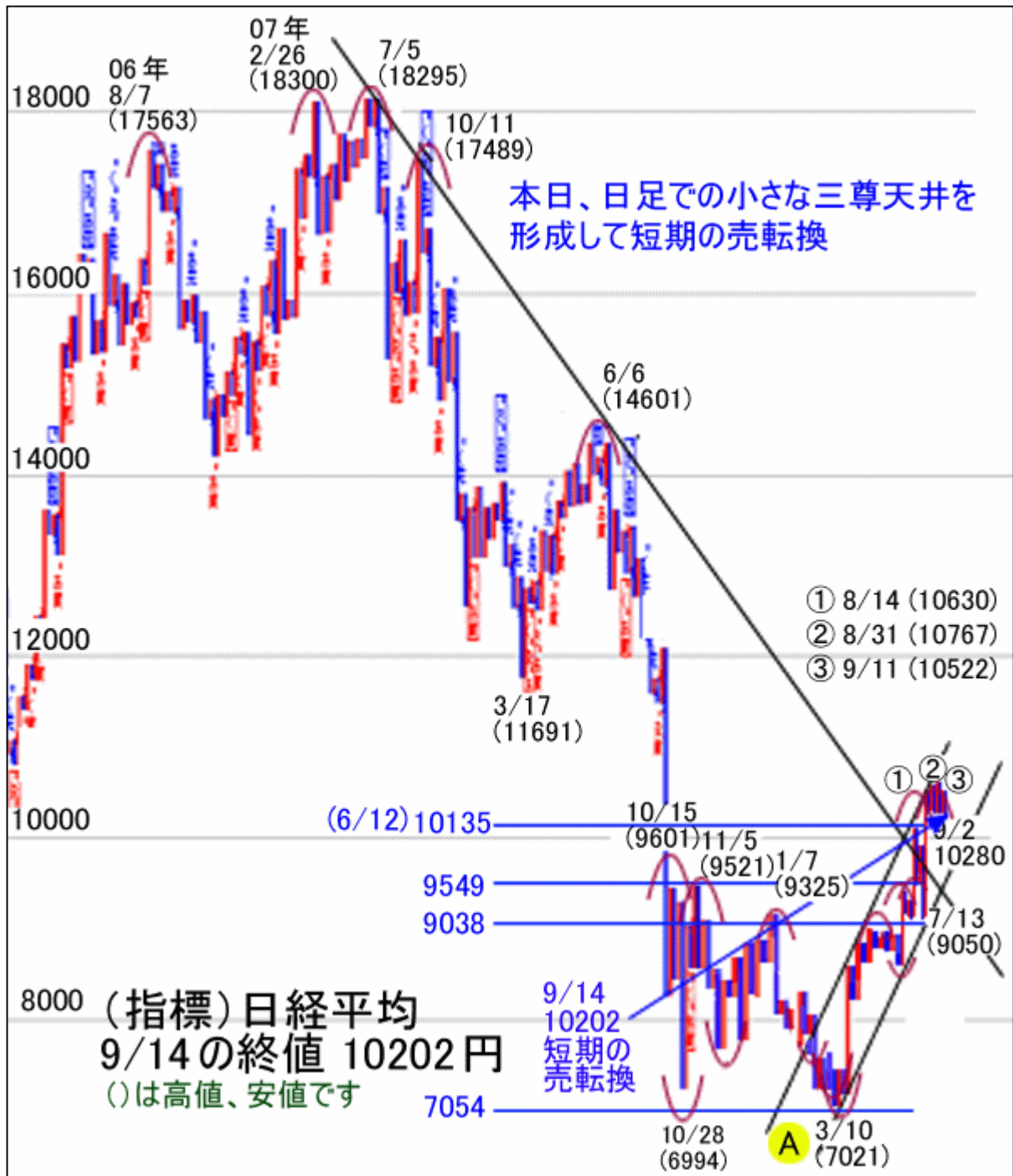
(2) 今回の買推奨銘柄

コード 銘柄	10/1(木)の 終 値	買ポイント	短期売買の 利食いポイント	コメント
3109 シキボウ	193	170～190 円前後 150 円台	230～250 円	新インフルエンザ関連
5981 東京製網	310	280～300 円 250～270 円	330～350 円	ワイヤーロープ最大手 太陽電池切断用ワイヤソー 大きな下げる待つのが基本
6310 井関農機	342	320～340 円 300 円台	380～400 円 420～450 円	民主党政権の農業関連。目先材料出尽く しで大きく買われた分投げがでている。 安いところは買い。クボタに連動。
6326 クボタ	729	670～700 円 650 円前後	800 円前後	民主党政権の農業関連の大本命
8002 丸紅	457	420～440 円 380～410 円	480～500 円 530 円以上	世界経済の回復期待
4745 東京個別指導 学院	215	190～210 円前後 170～180 円台	240～250 円 270～280 円	民主党の政策関連(子育て)銘柄として急 騰後、材料出尽くしとなって9/16に222円 で売転換。まずは1/2押し(209円)近辺か ら買い下がり方針で。

今週は、S Q 1 週前のオプションの攻防で、本日は 154 円の 9978 円と大きく下げてプット(売
り)有利となっており、明日大きな戻りがなければ今週はプット有利で終わり、来週の S Q (10/9)
に向けて一段安となる確率が高くなります。N Y ダウ次第では 9700 円～9800 円、さらに 9500
円割れも可能性がありますので一度に買わず買い下がり方針となります。

全ての情報は成果を保証するものではなく、出島式株式分析法による情報提供が目的であり、
投資の最終決断は自己責任原則に基づきご自身でご判断して下さい。

日経平均(1)



本日は▲242円の10202円で売転換が出現しました。この売転換は3/10の7021円(ザラ場安値)からの上昇トレンド(A)の中での小さな三尊天井を形成しての売転換出現ですので、それなりの幅の調整はありませんが、本格的にトレンドを崩すような調整ではありません。週足の終値ベースでみると、3/10の7054円から6/12の10135円までが第1段目の上昇、そこから7/13の9050円まで下落して、ここから8/26の10639円までが第2段目の上昇であり、ここをピークに売転換出現となったことで、この2段目の上昇幅(1589円)の1/2押し(9844円)以下が出ると3段目の上昇となって、このピークで3/10の7021円からの上昇が終わることになり、そこからは本格的な調整も考えられることとなります。それはまだ先の話で、とりあえず今回は大きく下げれば短期リバウンド狙いの買いチャンスとなります。チャートからみると9700~9800円水準は1回目の買い場と言えます。

9/14の出島投資ワールドより

日経平均(2)



9/14(月)に10202円で柴田野線で売転換が出現し、その後は、NYダウが年初来高値の動きとなり、逆に為替は円高方向となったことで10100円~10500円台のもみあい継続となりました。先週は連休明けで2日間の営業でしたが9/24(木)は9月決算の配当取りもあって先物主導で173円の10544円となりましたが、週末は、アメリカ株安、円高、商品市況の大幅下落から278円の10265円と急落して引けました。その引け後のアメリカ市場で為替が90円を切る円高となったことで本日は輸出関連株中心に売られ、8/21の10142円という強力な抵抗ラインを切ったことで下放れとなり(9/25の分析ですでに予測)、本日は9971円まであって終値は256円の10009円となりました。目先は26週移動平均線(9786円)水準が目安となりますが、NYダウが9605ドルを切るのかどうか注目となります。特に9549ドルを切るようですとNYダウも下放れとなりますので、調整に時間がかかり、日経平均も連動することになります。但し、為替は昨年の12/17の87.109円が抵抗ラインとなりますので、ここまでくると輸出関連株が反発し日経平均も戻りに入るかもしれません。

9/28の出島投資ワールドより

ドル/円



先々週(9/11)の時点での予測では、この日に90.20円まであって終値は90.617円となりました。目先はこの水準で円高一服となってドルの買い戻しがいり、その戻りのあとに90円を切ってくるとしました。その後、9/16に90.118円までの円高がありました。ここから戻りにはいり、短期の買法則がでて、9/21(月)には92.519円まであって終値は91.986円となりました。9/24(木)までは91円をはさんだもみあいとなっていました。週末は一気に90円を切り89.497円まであって終値は89.567円となりました。目先は今年の12/17の87.109円水準が下値の抵抗ラインとなります。

あらためて、チャートを引き直してみると大きな戻りがあったとしても為替の円高トレンドは、中期的にはより鮮明となってきています。当初は、3/5の99.662円、4/6の101.43円、5/7の99.764円と日足での三尊天井となって上昇トレンドを下に切って過足での円高トレンド転換としました。その後、6/8の98.851円が戻りの2番天井、さらに8/7の97.759円が戻りの3番天井となって5/22の93.849円を切ったことで、4/6の101.43円を1山目、6/8の98.857円を2山目、8/7の97.759円を3山目とする順次、アタマを低くする三尊天井ができあがりました。9/16の安値90.118円を守っている間は、中期の下降トレンド(A)の下値斜線にサポートされていることとなりますが、週末に90円を切ったことで下降トレンド(A)を下にぬけてきています。目先は87円～88円水準が下値抵抗ゾーンとみています。早目にトレンド(A)内に回復すれば、この下降トレンド(A)の中での動きとなりますが、さらに下げて時間を要するとトレンド(A)の下値斜線が上値抵抗線にかわりましますので、いったん反発することになりそうです。

9/28の出島投資ワールドより